



駒澤会だより

第1号

(2004年1月1日)

発行：駒澤大学 駒澤会

◆◆◆駒澤会だより発刊によせて◆◆◆

駒澤会会長 大村 宣雄



駒澤大学は、昨秋開校120周年を迎えました。その発展を願い発足した駒澤会も30年余の歴史を数える事が出来ました。その間会を支えて下さった大勢の方々の努力があってこそと思います。さらに充実した会を目指しこの度（駒澤会だより）を発刊する事となりました。会員の情報交換誌として、ますます会の皆さまの親睦と発展が実りあるものとなるよう念じております。

合掌

◆◆◆駒澤会の創立について◆◆◆

駒澤会の創立

創立 昭和四十六年十月

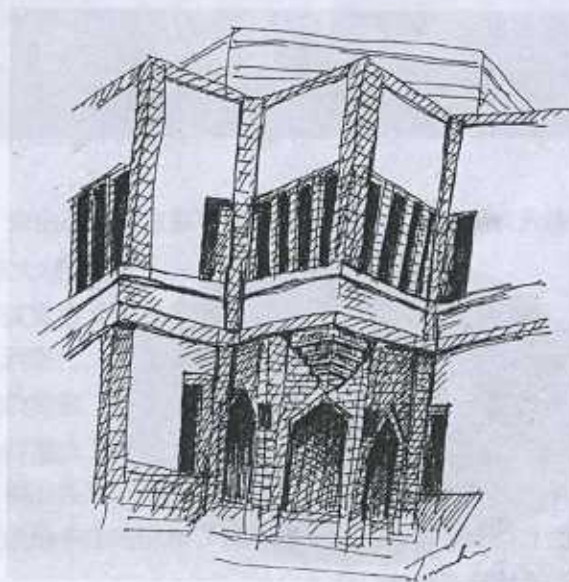
駒澤会は、昭和46年3月卒業の父兄有志が、子弟卒業後も相互の親睦を図りつつ、大学の発展興隆と教育効果の向上に寄与したいとの念願から結成した父兄OB会七一会を源流とする。その後七一会父兄の声が多く共感を呼び、父兄会発足以来の父兄達の賛同も得て、大学開校九十周年を記念して昭和四十六年十月「駒澤会」が誕生するに至った。

駒澤会の当面の目標は、大学の「奨学金制度」の確立に向かって最大の援助を行うことであった。初代会長には、曹洞宗審事院長黒田白純師が迎えられ、事務局長には、同会の懇望もあって身辺多忙、健康必ずしもすぐれない時期であったが、会を軌道にのせるために藤田副学長が自らすすんでその任に当たることになった。

会費（終身）五千元だけでは相当年数がかかるので、黒田会長をはじめ各副会長、その他役員と共に大本山永平寺、大本山総持寺、曹洞宗の主な

寺院から篤志寄付をお願いし、藤田事務局長自らも多額の浄財を投ずるなど、格段の努力が払われたおかげで当初の目標額三億円には及ばなかったけれども、過去十年間の実績によって一応奨学金制度を実施することになった。

（「駒澤大学九十年史」より抜粋）



◆◆◆鎌倉研修旅行レポート◆◆◆

日程 平成 15 年 10 月 11 日～12 日
 場所 鎌倉わかみや (参加人数 29 名)



6 時より奈良総長の粋な学話を拝聴し、クイズあり、余興ありの楽しい一時を過ごしました。

翌日、道元禅師の碑を見学し、奈良総長のご説明をいただきました。

めまぐるしい変化が次々に生じ、じっくりと物事に取り組むには気をそそられ、心惑わされる事があまりに多いこの頃ですが、この一泊旅行で

お互いに関わりを持ち続ける事によって、円満な人間関係が成立するのだと言う事を改めて感じた次第です。

研修旅行を開催するに際しまして、大学事務局、役員、委員、参加者の方々、ご尽力いただきました厚生部の皆様に感謝申し上げます。(露木 記)



道元禅師「正法眼藏」の中の有名な言葉

「只管打座」

ひたすら座ることが悟りの道を開く

「心身脱落」

座ることにより不要な物を徹底的に落す

道元禅師の「只管打座」の塔が鎌倉にある由来

すでに曹洞宗を開き、福井に永平寺を創建し一切の名利、俗塵を退けて入山していた、道元禅師四十八歳の時、乞われて、約半年、鎌倉の地にて時の将軍北条時頼に仏法を説いたと言われています。それを記念して平成十四年道元禅師七百五十年大遠忌を記念して曹洞宗の寺僧の力で建立されました。



◆◆◆役員紹介◆◆◆

名誉会長	奈良 康明	副会長	高見 静子	総務部副部長	三崎 章子
名誉副会長	大谷 哲夫	事務長	柘植 忠章	厚生部長	佐藤 功武
名誉副会長	竹花 光範	監査	磯田 昭	厚生部副部長	赤堀 菊絵
名誉副会長	大淵 勝博	監査	澤畑 三郎	厚生部副部長	山田 元弘
会長	大村 宣雄	監査	戸谷 誠之	広報部長	月村 貴久江
副会長	高笠 幹男	総務部長	萩原 孝久	広報部副部長	高橋 輝子
副会長	三宅 哲也	総務部副部長	神山 雅夫	広報部副部長	藤田 久子

◆◆◆副会長から・・◆◆◆

副会長 高笠幹男

当駒澤会の〔会報〕は、15周年と20周年の2回「駒澤会のあゆみ」として発行されたことがあったようです。学校の情報は事務局からの連絡によって、対応できますが、個々の事柄となりますと、関係者以外なかなか情報連絡の方法がなく、大変難儀しておりました。いつか定期的な〔会報〕をといろいろ模索しておりましたところ、このたび高見副会長を中心とし、広報部の「有志」の方々、とくに駒澤会をよく知っているベテラン会員の皆様ご協力によって、発行する運びとなりました。

皆様に「会」の動向をお知らせできる機会ができましたことは、長年の悲願であっただけに、本当によかったと思います。発行回数を重ねるたびに、より充実した〔会報〕になるよう、ご協力を期待いたしております。

副会長 三宅哲也

駒澤会の会員の方々と密接な連絡を取って、出来るだけ多くの方に会の活動に参加していただきたいというのが長年の念願だったが、今回そのひとつの手段として会報が発行される段取りとなったのは喜ばしい。ここまで漕ぎつけた関係者の努力に感謝したい。

さて、駒澤会の目的は駒澤大学のますますの発展を側面から支援しようというものだが、現在その唯一の策として僅かながら学生さんに奨学金を支給している。優秀な学生が勉学に励む機会をできるだけ増やしたいというのが趣旨であるが、その意志が生かされることを切望している。

副会長 高見静子

昭和46年からの駒澤会会員の物心両面からの多大な努力で今日の駒澤会が存在することを思い、又時折耳にします先輩諸兄の情報と現在の会はこの様な活動をしておりますと、会員の皆さまにお伝えする機会を得る事ができましたことは大変幸せなことでした。事務局、執行部、広報部有志の方々のご協力に心より感謝申し上げます。

次回からもますます内容を充実させて駒澤会同様発展して行きたいと思います。



◆◆◆会員計報◆◆◆

ご冥福をお祈りいたします



山本 政治 様 2002.3.26
 (会の発足時から長年の間会計
 監査だけでなく会の運営に大変
 ご尽力いただきました。)

野口 貢 様 2002.7.31
 (旧父母会長、駒澤会副会長
 として、会を見守りご活躍い
 いただきました。)

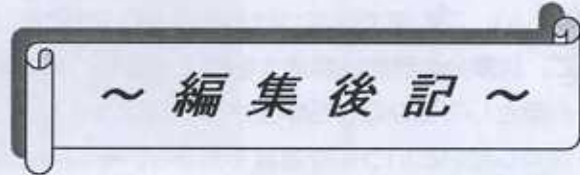
石川 弘 様 2003.9.14
 (5月の総会で長年の監査役
 及び役員として功績に感謝し
 て記念品を添え会より表彰さ
 れました。)

◆◆◆行事予定◆◆◆

12月26日(金)～1月7日(水)	大学冬季休業
1月11日(日)	新年賀詞交歓会
1月下旬	役員会
2月	役員推薦委員会
3月25日(木)	卒業式
4月2日(金)	入学式
4月	役員会
5月16日(日)	教育後援会定期総会
5月	駒澤会委員総会



会員の皆さまコーナーです。近
 況、お知らせ何か情報があったら
 お知らせ下さい。



編集	高見静子
広報部	霧木千八子
	高橋輝子
カット	高笠幹男
写真提供	山田元弘

先輩の玉田武子氏が35年間 TV サ
 ザエさんのガリ判印刷をなさっていら
 したと TV でインタビュー放映されま
 した。ちょっとしたニュース何かござい
 ましたら是非お報せ下さい。今回左記の
 方々及び事務局の協力があって初めて
 出来上がる事が出来ました。会員皆さ
 まの情報交換誌として、どんどん活躍出
 来る様皆々様の協力を期待いたします。